

光市医師会報

No 168

I am a Doctor



Dentist

昭和61年10月発行
光市医師会

医師会月間行事

S 61 年 9 月 度 理 事 会

9月9日 於医師会館

- 1：光市医師会史編纂に関して
(会長)
- 2：予防接種等の受け付け時間について
 - A：乳児健診料及び請求書回収の件について
 - B：救急ポスター配布の方法について
(福本理事)
- 3：光市国保係との話し合いについて
(中村琢美理事)
- 4：生涯教育を中心とした病院連携についてのアンケート調査の実施について
- 5：山口県癌情報収集登録事業について
以上(福本理事)

S 61 年 9 月 度 例 会

9月16日 於医師会館

- 1：光医師会史について
- 2：乳児健診請求書回収の期日について
- 3：山口県癌情報収集登録事業について
- 4：周南医学会実行委員会経緯の説明
以上(会長)

S61年周南医学会準備に関して

9月4日

光市労働福祉会館下見

9月9日 於医師会館

準備委員会(理事会終了后)

9月16日 於医師会館

実行委員会(例会終了后)

9月27日 於光市労働福祉会館

学会会場準備

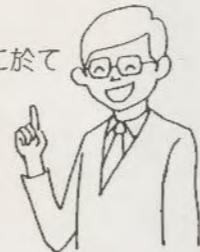
1:00PM~3:00PM

昭和61年度日本医師会医学講座

山口県癌免疫化学療法研究会教育講演および山口県特定疾患専門医師研修会と併せて開催

9月23日(火・祝)

山口県医師会館講堂に於て



特別講演

1：免疫・腫瘍マーカーとの関連

講師：山口大学医学部産科婦人科助教授 加藤 紘

座長：山口県医師会理事 田村陽一

2：腹部救急医療

講師：千里救命救急センター所長

太田宗夫

座長：山口県医師会副会長

田村武男

3：パーキンソン病・異常運動疾患の鑑別

講師：埼玉医科大学神経内科教授

浜口勝彦

座長：山口県医師会常任理事

藤野 巖

4：当面する医師税制

講師：衆議院議員 塩崎潤

座長：山口県医師会長 平田晴夫

る事だそうである。私の道楽と言って被露する程のものもないので昔を思い出して乍らさゝやかな麻雀歴で責を果したいと思う。昭和初期頃文化人達の間で盛んで段位もあって次第に布達していた事は知っていた。終戦後一応落ち着いた頃から友人に教えて貰った。当時は誰もが経験した様に無いものづくしの世情で苦勞も多かったが愈々平和の到来、何んとも言ひようのない解放感に浸り、明るい希望に充ちた日々を送る中で唯一の娯楽であった。中国製の中古牌を暗値で買ひせせと卓を囲んだがルール等を会得するのは中々であった。免に角中間入りも出来る様になると面白さも一層募り誘ひ誘はれ熱を上げた。これで止められるかとか、帰しはせんぞなどは常踏語で夜も更け徹夜ともなったものである。或年の正

私の道楽

高 島 潔



趣味が高じて道楽となるとはよく言はれる。趣味は高尚だが道楽となると大分品が落ちる。道楽とは自分の常職でない他の道に耽り楽しむとか、よくない遊興に耽溺す

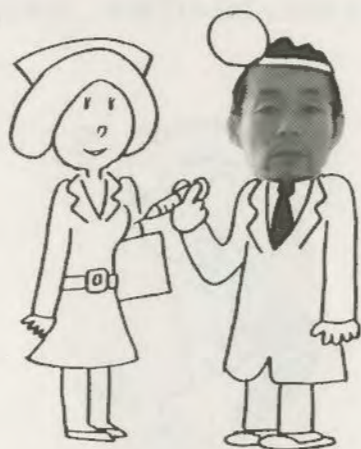


月某氏宅で新年会となり賑やかに興に乗り何時の間やら夜も明けてしまった。朝食を馳走になり副食に鮭が出た。当時は得難い品であり之は珍味と食べたら随分と塩辛かった。正に当り前の事であるが只何んとななくよく思ひ出されるのである。其頃は若くバイタリティーもあったが夜更し、朝帰り

で流石に仕事にも障り、博才の乏しさも加はって次第に遠ざかってしまった。やめたのではない。親しいT先生はベテランであったが、ご子息の勉学の妨げとばかり止められたと聞き敬服して居る。私は相変わらず飽きもせず常連と家庭麻雀を楽しんで居る。今ではボケ防止策と自讃し、中国の鄭小平氏も休みに水泳・麻雀と言っておられる様で吾が意を得たりと例会日を楽しみに当分は続ける積りで居る。

“うちかたの先生”

光市立病院 濃川先生編



「ウーン、痛いだらうなあ、困まったなどうするかなあ。」と、腕組みをして、創部を見つめて、早数分。「困まったなあ」の連発に、診察介助の看護婦の指が、一本二本と折れていく。思案のあげくに、「切開縫合。」と、指示がとぶ。ところが、一度決断するが早いか、サッと白衣を翻し処

置室へ。「用意はいい。」何と言う変わり身の早さ。しかし、看護婦も馴れたもの、腕組みの間に準備万端。

この外科の看護婦達の苦労を、知ってか知らずか、うちの先生、今日も朝から腕組みをして困まった顔をして、御出勤。濃川正信〇歳。苦味走った男の魅力を、全身で表現しようと、意識しているのかどうかは、わからないが、「ニコッと笑う笑顔が可愛い」と、看護婦の間では、隠れたファンが多い。



さて、光市立病院副院長、外科医長という肩書きを見ると、いかにも堅物と言うイメージが湧きますが、小柄で背中を丸めて歩く姿には、思わず親しみを感ずります。院内では、通称「濃さん」。医局間での呼び名が広がり、いつしか看護婦間でも、本人を目の前にしなければ使われる様になりました。若い女性が、お好きな様で、回診

時「ウーン、若いな、綺麗な手だな。」と、例のスタイルで、ポソツと眩く姿を見て、そろそろ中年の……との囁き。しかし、根強い濃さんファンは、名医たるもの、患者の年齢、性別、社会的背景、全身状態を知って当然とのたまわれる。こんな詰所での看護婦の熱い戦も知らず、今日も、ポソツと一人言を言って歩かれる。

患者さんの反応は、先生の思いに反して何故か、お年寄りのファンが多い。93歳になる、あるおばあちゃんは、月に二回定期便の様に、受診する。不自由な体で、フーフー言いながらやってきては、ドッカと椅子に腰を下し、裏の竹やぶに竹の子が生えた事、孫といっしょに、お風呂に入った事一つ一つを、丁寧に話し始める。机の上に並んだカルテの山など、気にもとめていない。先生はというと、ニコニコ笑って、「そうか、そうか。」と、うなづいている。この忙がしい時にと思いながらも、なんとなく心暖まる。このやさしさが、たまらないのだろうと思います。しかし、できる事なら、このやさしさを、看護婦達にも、いただきたい。何とか午后の手術に、昼食を済ませて行っていただこうと、時計を見ながら、走りまわっている我々は、時間と共に背中に汗が流れる。クーラーの故障かと思いきや、やっぱり、スイッチが切られている。犯人は、先生。「患者は、裸になると寒いんだぞ。」と言われるが、本当の理由は、クーラーアレルギー。たて続けのくしゃみに、たまりかねての、実力行使なのである。いくら夏は、暑いから夏なんだと言われても、私達は、動きまわっているんです。「クーラー大好き病」なのです。

来年の夏は、せめて「中」のスイッチで、歩み寄りませんか、先生。

濃川先生の唯一の趣味は、魚釣り。でも釣りの事は、釣リマニアの雑誌に、外科の鳥枝先生が、くわしく書かれている様なので、この紙面では、省ぶかせて、いただきます。

うちかたの先生の素顔を書いて下さいと言われ、あまりに正直に書き過ぎたかなと少し反省しながらも、光市立病院副院長濃川先生が、見えましたか。

光・下松医師会合同親睦コンペ

9月23日 於周南カントリー

名 前	out	in	グロス	ハンディー	Net	
森 本	45	47	92	16	76	
村 上	58	55	113	27	86	B・B
佃	78	60 大塚	138	30	108	
藤 村	42	46 ニア	88	10	78	
日 坂	45	42	87	10	77	B・G
花 田	47	52	99	16	83	
中 島	46	46	92	29	63	優 勝
西 辻	44	44 おしどり	88	8	80	
守 田	45	49 ニア	94	13	81	
市 原	46	49	95	16	79	
平 田	51	44 ドラ	95	18	77	
白 倉(安)	45	43	88	14	74	準優勝
諏 訪	45	47 ニア	92	15	77	
河内山	50	49	99	16	83	
藤 原	50	51	101	19	82	
国 本	55	57	112	28	84	
小 林	42	54 ニア	96	19	77	
前 田	51	49	100	25	75	
伊 藤	52	57	109	30	79	

占部 ドラ

下 松 370
光 383



あ と が き

やっと冷房電気代が節約出来ると思う間もなく、朝夕グッと冷え込み、重油代を気にする季節となりました。

今月号は“うちかたの先生”は市立病院編第2弾と高畠先生に御無理願いました。

来月は周南医学会の特集号としたいと思っております。いつも皆さん御協力ありがとうございます。

発行所	光市医師会 TEL 0833 72-2234
発行者	竹中昭二
編集者	会報編集委員会
印刷所	光市御崎町 中村印刷株式会社